

GLOBAL GAZETTE

大分県立芸術文化短期大学

国際総合学科 通信

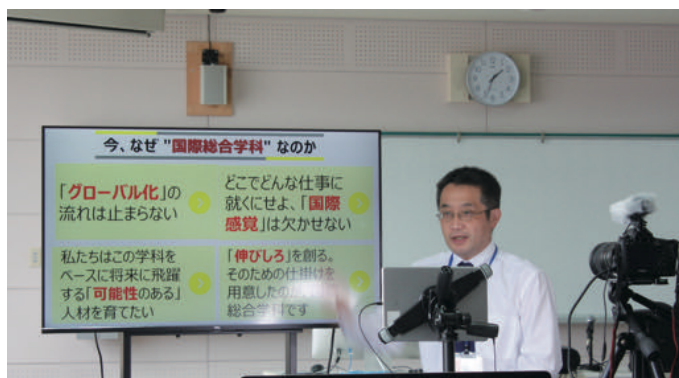
Autumn, 2020

令和2年度第2回オープンキャンパス

2020年9月19日(土)に、令和2年度2回目となるオープンキャンパスを開催しました。コロナ禍の現状をふまえ、7月に引きつづき今回もオンライン開催となりました。多くの方にご参加いただき本当にありがとうございました。



◎左の1枚が昨年9月のオープンキャンパス、右と下に掲載した写真が今年9月の模様になります。去年と今年で雰囲気は異なりますが、3つのコースを併せ持つ本学科の多彩な魅力を少しでもお伝えできていたら嬉しいです!



第59回芸短祭をオンラインで実施!

59回目となる芸短祭が、10月25日(日)にオンラインにて実施されました。制約の多い中ではありましたが、サークル紹介動画の放映や、豪華景品つきの抽選会、プロの芸人さんによる芸短に向けてのお笑いライブなど充実した内容でした。視聴した方には例年と変わらず楽しんでいただけたのではないのでしょうか。校友会のみなさん、お疲れさまでした!

ちなみに、今回の芸短祭を放映した「特設スタジオ」は本学科のスタッフが中心となり9月に開設したものです。すでに、「キャリアデザイン」の講義にお招きする外部講師の方に利



用いただくなど、本学科の教育のために多くの場面で活用されています。

「廣道純選手と TALK SHOW」を開催

11月13日(金)、本学大講義室にて「大分車いすマラソン 2020 廣道純選手と TALK SHOW」が開催されました。これは、ジュリー・ヌートバー教授による「多文化理解論」公開講座として行われたものです。新型コロナ・ウイルス対策のため、今年は参加者を本学学生に限定しての実施となりましたが、廣道純選手と洞ノ上浩太選手からは、車いすマラソンとの出会いや、2日後に迫ったレースの見どころなど、貴重なお話がつぎつぎと披露されました。講座の最後には学生からのたくさんの質問に気さくに答えていただき、得難い交流の機会となったようです。お忙しいなか楽しいお話をありがとうございました。

例年は本学科からも多くのボランティア学生が協力する「大分国際車いすマラソン」ですが、新型コロナウイルスのため延期となり、本年は国内在住選手に限定して「大分車いすマラソン 2020」が開催されました。



国際総合学科 Facebook ページ



<https://www.facebook.com/geitanglobal>



先生方へのインタビュー（欧米編）

本学科で講義をしている先生がどんな学生時代を過ごしていたのか気になりませんか？ 前号と今号では、みなさんのそんな関心にお応えします。今回は、西洋史がご専門の高瀬圭子（たかせ・けいこ）先生と、アメリカ研究の Julie Nootbaar（じゅりー・ぬーとばー）先生にお話をうかがい、つぎの3つの質問に答えていただきました。

- Q1 高校生のときはどのような進路を考えていましたか？
- Q2 初めてウィーン（日本）を訪れたときの印象や思い出を教えてください。
- Q3 本学科に進学を考えている方へメッセージをお願いします。

高瀬先生のお話

A1 大学でヨーロッパに関する勉強をしたい、という希望はありましたが、そこから先のことは正直あまり考えていませんでした。専攻する分野も、歴史か言語か美術史か、いずれも興味があって迷っていました。結局、歴史を選んで進学しましたが、その大学で出会った恩師が、私に合った研究テーマを薦めてくださったのが、今の自分につながっていると思います。そのめぐり合いに、とても感謝しています。



◎ウィーン
大学構内にて
2015年撮影

A2 ハプスブルク家の歴史を学ぶためにウィーン大学に留学するまで、一度も外国旅行をしたことがありませんでした。現地に到着した翌朝、教会の鐘の音を耳にして、本当にヨーロッパに来たんだ…！と感激したのを今でもよく覚えています。自分の五感でヨーロッパを感じた、最初の体験でした。また、ウィーンで話されているドイツ語には独特の訛りがあり、日本で習ったドイツ語となんだか違う…！と当初は随分戸惑ったものです。これも現地ならではの経験だったかもしれません。生活しているうちにすっかり慣れましたが、この方言を話せるようになるまでには至らなかったのは、少し残念です（笑）

A3 好きなもの、興味のあるものがあれば、それを大事にしてください。そこからいろいろな縁が生まれ、可能性が広がっていくと思います。本学科での出会いが、未来につながることを願っています。

Nootbaar 先生のお話

A1 Until I started university, I had no idea what I wanted to be in the future. After entering a liberal arts college, by chance I discovered Asian Studies and decided to focus on the cultural history and anthropology of Japan. As a student, I thoroughly enjoyed reading and doing research, so I dreamed of becoming a librarian or researcher in the future. As I was studying Japanese language, I also considered becoming a translator. At the time, I did NOT want to be a teacher!

A2 I first came to Japan as an exchange student in my third year of college, when I studied at a university in Osaka and stayed with a Japanese family. Coming from the diverse country of the United States, it was really surprising to me that everyone around me was Japanese! Japanese culture was completely different from American culture, so every day was really new and exciting. I was particularly interested in visiting many famous historical sites in the Kansai area, as well as experiencing everyday activities with my host family and friends. My best memory was traveling from Maizuru, Kyoto to Otaru, Hokkaido by ferry with some Japanese friends. We spent a week driving around Hokkaido, eating delicious foods and enjoying the spectacular nature there.

A3 My message to students considering entering the Global Studies Department is to open your eyes to the world and seek to have many experiences and adventures in your lifetime. College will give you many opportunities to do things such as study abroad and do volunteer activities, and in your private life you can travel to different places and make many new friends. When you graduate, you will have gained the tools and experiences to get you started in a life of global-minded thinking and actions!

◎アメリカで行なった「海外ボランティア実習」（フードバンクでの活動）の様子
2019年撮影



国際総合学科 Instagram ページ



<https://www.instagram.com/geitankokusa>

